

様式第3号(第12条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	令和8年度第1回吉川市廃棄物減量等推進審議会
開 催 日 時	令和8年5月25日(月) 午前10時00分から 午前11時30分まで
開 催 場 所	吉川市役所2階201会議室
出席委員(者)氏名	立石桃子委員、桑本潔委員、附田健志委員、中村博明委員、 五十嵐恵千子委員、秦英世委員、萩原豊子委員
欠席委員(者)氏名	生田貴之委員
担当課職員職氏名	環境課長 大瀧 和寛 環境課資源化推進係長 山崎 徹 環境課資源化推進係主任 高橋 亜矢子
会議次第と会議の公開又は非公開の別	1 開 会 2 議 事 (1) 会長・副会長の選出について (2) 廃棄物減量等推進審議会の概要について (3) 第4次吉川市一般廃棄物処理基本計画(第1章から第3章) の概要について (4) 第4次吉川市一般廃棄物処理基本計画(第4章から第5章) の概要について (5) その他 3 閉 会 すべて公開
非公開の理由 (会議を非公開にした場合)	なし
傍 聴 者 の 数	なし
会 議 資 料 の 名 称	・ 次第 ・ 資料1 吉川市廃棄物減量等推進審議会委員一覧 ・ 資料2 吉川市廃棄物減量等推進審議会の概要 ・ 資料3 令和7年度ごみ処理の実績等について ・ 第4次吉川市一般廃棄物処理基本計画
会議録の作成方法	☐ 録音機器を使用した全文記録 ☒ 録音機器を使用した要点記録 ☐ 要点記録
会議録確認指定者	立石委員、萩原委員
その他の必要事項	なし

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
1 開 会	————— 《開 会》 —————
事務局	ただ今より、「令和8年度第1回吉川市廃棄物減量等推進審議会」を開会する。
	————— 《配付資料確認》 —————
事務局	配布資料を確認。
	————— 《会議の公開》 —————
事務局	本日の会議は全て公開で行う。
	————— 《定足数確認（会議の成立）》 —————
事務局	会議開催の定足数である過半数に達しており、会議が成立していることを確認した。
	————— 《議事審議》 —————
	————— 《署名委員の指名》 —————
仮議長 (環境課長)	会議録の署名委員に、立石委員と萩原委員の二人を指名。
	(1) 会長・副会長の選出について
	会長に桑本委員、副会長に五十嵐委員が選出された。
	————— 《議事審議》 —————
	(2) 廃棄物減量等推進審議会の概要について
事務局	事務局より資料1の説明
	【事務局説明（略）】
	質疑
	質疑なし
	————— 《議事審議》 —————
	(3) 第4次吉川市一般廃棄物処理基本計画（第1章から第3章）の概要について

事務局	【事務局説明（略）】
秦委員	質疑 1人1日当たりの事業系ごみ排出量が令和5年度から令和6年度にかけて239gから219gに減少した理由は何か。
事務局	多量排出事業者が新たに参入したことなどが理由で令和3年頃から増加傾向となり、令和6年度に一時的に排出量が減少したものと考えている。令和7年度には、吉川美南駅東口周辺地区土地区画整理事業地内で事業所が稼働し始めたこともあり、258gまで増加した。 —————《議事審議》————— （4）第4次吉川市一般廃棄物処理基本計画（第4章から第5章）の概要について
事務局	【事務局説明（略）】
秦委員	質疑 再生利用率が目標に対して低い実績となっている。目標を達成するための施策は何かあるか。
事務局	この数字から20%台後半にいきなり持つて行くのはほぼ不可能に近いと思う。伸び悩む理由としては、紙類が減少し、集団資源回収の団体数が変わらなくても回収量が減少し、今後は団体数の減少が見込まれる。プラスとなる要因としては、焼却灰の資源化量が直近では増加している。大きな上昇が見込めるとしたら、プラスチックの分別収集が始まらないとこの水準に

	は到達しないと考えている。
秦委員	前回の会議で、他市では剪定枝を市で回収して堆肥化している例があり、提案した。堆肥化施設に持ち込もうとしたところ受け入れが1か月先になると言われたので、剪定枝を一時的に預かる場所を設けて回収すれば再生利用率が上がると思うが、検討いただけないか。
事務局	まず、現在家庭から出ている枝草の量は年間で20t程度で、潜在的にどれくらいの回収量が見込まれるのかが分からない。リサイクル率という環境の目標を立てているが、やはり経費の問題がある。また、ストックする場合、剪定後一定期間が経過すると堆肥を作成する材料には向かなくなることがある。元々のキャパシティとして年間1,000t程度のため、ストックヤードが空かないと受け入れられないため、リサイクル率を大きく上昇させる手段としては難しいところがある。堆肥でどの程度リサイクル率が上がるかという点、1,000tの搬入量に対して30%台の堆肥しか作成されない。単体のリサイクル率がその程度となるため、リサイクル率を引き上げる面とコストの面とを考えると、収集に回るところまでは困難であると考えている。
中村委員	再生事業者としてお話をさせていただくと、剪定枝が肥料として成り立つには1年ないし2年かかるため、それだけの膨大な敷地が必要である。剪定された木を破砕機にかけて、5cmとか2cmとかに細かくして、それを山積みにして、空中にいる菌で発酵し、堆肥ができていく。これを自然発酵でやると1年ないし2年かかる。発酵で自然に熱が出て水と空気に分かれ、最後に肥料として残る。強制的に発酵させるのにエアを送ることがあるが、重機で攪拌して空気を入れ替えないといけない。蒸気

	が出たときに臭いが出て、悪臭の苦情が入ったり、発酵で熱が出るため、管理監督をちゃんとしないと自然発火もする。切り返しという作業も行わなければならないのでコスト高になってしまう。場所も必要となり、結構な手間暇がかかるというのが現状である。最近では、バイオマス発電所で引き取ってくれるところもあるが、中々受け入れてくれない。バイオマス発電所で木くずチップで運転している場合、大体はコスト削減のため無人のオートメーションで24時間運転している。形状が同じものでないと24時間低コストで燃やせないため、大きさの違うものは嫌がられる。それなりにキャパシティもいっぱいを受けてもらえるところを見つけるのは大変である。
事務局	例えば、野田市の堆肥に関する取り組みは、作られた堆肥の使い方なども含めて政策的に取り組まれている。我々は、公共施設と個人搬入しか受け入れておらず、規模感が大きく異なる。試行として進めてきているので、プラント更新工事の中で資材置場等として利用する予定もある。今、吉川市の堆肥搬入量を格段に増やす、個人搬入の方から増やすという考えはない。
秦委員	どういう根拠で目標を立てたのか、具体的な考えがあって立てられていると思うが、現状との乖離があり、それを埋めるために施策を考えるべきだが、その施策は何もない状態で目標が掲げられているので、目標を修正すべきだと思う。
事務局	目標を修正すべきかどうかは、次年度に中間見直しを行うので、その中でご審議いただき、どういった数値目標に見直すのか改めて皆様と議論して結論を出していければと思う。
秦委員	何の施策もないままだ目標だけ作っても意味がないから現

	状の中でできるという目標に変更した方がいい。
事務局	もちろんこの計画を策定したときにはできる条件を整理して目標を立てていると思う。ただ乖離の幅が高すぎるということであれば、ある程度戦略的な目標も必要だと思うが、現実的なものと戦略的なものとバランスを取って計画の目標を採っていききたいと思う。
桑本会長	こちらの数値目標については、来年度、再生利用率というのはキーワードになってくるものかと思うので、皆様のご意見を踏まえてより良い政策と妥協できる再生利用率に落とし込むことになろうかと思う。
萩原委員	気になることとして、草を刈ったときのごみを乾燥なしでゴミ袋に入れて積んであるのが自治会内で見られる。また、土がたくさん付いたまま出されることは、燃やすゴミとして処理するにあたって問題ないのか。
事務局	燃やすゴミとして出される場合には、水分は焼却炉の燃焼効率を下げ、水分を含んだ分だけゴミは重くなってしまう。ゴミが重くなると市が負担する処理費用が余計にかかってしまうことになる。植物に含む水分の割合は非常に高いので、家庭園芸をされている場合には堆肥などにして土に還していただくのが理想的だが、ゴミとして出す場合には草を刈ったらそのままではなく、乾燥させて出すとゴミの減量になるのと出前講座などで説明している。また、土は落として出していただきたい。
萩原委員	私の場合は、野菜をつくる際に、乾燥したものを藁代わりに敷いたり、つるのあるものの下に敷いたり、みかんの木には根

	元に肥料と一緒に置いておくといった再利用をしている。 ————— 《議事審議》 ————— (5) その他 事務局より事務連絡 来年度の会議は、第1回を7月下旬から8月上旬頃、第2回を10月下旬から11月頃、第3回を1月下旬から2月上旬頃に開催できればと現時点では考えている。来年度の1回目の会議のときに改めてスケジュールを示したい。
中村委員	事業所から営利目的で出た事業系ごみと、住民の方が出しているごみが数字として一緒になって全体の排出量が算出されるのが難しいところである。立地条件が良く事業者が集まれば、雇用も生まれ、行政にとっては魅力のあるまちである。 食品廃棄物の多量排出事業者で、年間100tを超えるところはリサイクル義務を課す食品リサイクル法があり、リサイクル率を掲げている事業者も多い。リサイクルを図ろうとすれば、コストが上がってしまい、一般市民に跳ね返ってくることになる。やらないといけないことは分かっているけどコストがかかるというのが現状で中々難しい。リサイクルにも、需要と供給があり、世界の動向と関連している。
秦委員	自宅の庭に穴を掘って生ごみを埋めて堆肥として使うようにしており、この方法でも生ごみの排出量が減る。容器を使うのが一番いいが、手っ取り早くできる。そういう例をチラシにして全世帯にポスティングされた方がいいのではないかな。生ごみの減量とカラス対策になるので検討してほしい。
五十嵐委員	消費期限を過ぎていない食品をコンビニや郵便局で回収して

事務局 3 閉会 司会	いるが、福祉とどのように連携し、回収量はどのように把握しているか。 年1回、県全体の取り組みの中で、当市では子育て支援課、地域福祉課、社会福祉協議会と協力し、職員や民生委員・児童委員を対象にフードバンクを実施している。県に報告する重量は推計値で報告している。 —————《議事の終了》————— —————《閉会》————— 以上で本日の審議会の内容はすべて終了した。これをもって、会議を閉会する。
以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。 令和8年6月16日 署名委員 立石 桃子（自署） 署名委員 萩原 豊子（自署）	